

黒姫山 2053m

黒姫山はその北と西を新潟県との境とする長野県北端の山である。その東山麓にある信濃町柏原は俳人小林一茶の生誕の地である。柏原の北東には美しい野尻湖があり、吸い込まれるような青い水面に黒姫山の姿を映し出している。

黒姫山の三角点は、実は外輪山の最高点(2053m)にあるが、それよりわずかに低い御巢鷹山(小黒姫)と呼ばれる中央火口丘(2046m)が頂上に見える。昔はここで鷹狩りをしたので、その名がついたという。

山名は、この山にまつわる黒姫伝説によるといわれる。昔、山の東にある中野市の城主高梨摂津守政頼に、黒姫という美しい一人娘がいた。ふと姫を見染めたのは志賀高原の大池に棲む大蛇で、若侍に姿を変え、政頼に姫を嫁にと懇願したが、正体を知られ断られてしまった。怒った大蛇は大池の水で城下を押し流そうとしたが、優しい姫は洪水を避けるため自ら進んで大蛇の化身に嫁ぐことにした。しかし蛇身と結ばれる苦悩は何としても消しがたい。姫が苦衷を訴えると、さすがの大蛇も同情し、二人は黒姫山に登って相果てた。

二人の束の間の桃源郷となった火口原の七ツ池は、溶岩やまわりの樹木と調和して、見事な日本庭園のようである。池塘の間には背丈十センチほどの小ザサが敷きつめられている。二人が手に手をとった遠い昔の幻想をよぶところである。

黒姫山はこんな悲しくも美しい伝説を秘める北信濃の名山で、樹林に覆われた山は新緑と紅葉の季節が特に美しい。表登山道と呼ばれる東から登るコースは、登るにしたがいカラマツ、スギの植林地、ブナやシラカンバの広葉樹、シラビソやコメツガの針葉樹へと変わっていく。八合目の岩の間にはヒカリゴケが見られる。火口を取り巻く外輪山にはオオシラビソ、モミ、コメツガなどが疎生し、ハイマツもある。火口原にはキバナシャクナゲ、チングルマなどの高山植物が見られるが、中でもオオバグサの群落は近隣の山にはなく、この山にだけ見られるものである。七ツ池と大池にはクロサンショウウオが生息している。西山麓の大タルミ湿原は高層湿原の植物が豊富であり、また北東部の山麓には深雪地帯の植物であるユキツバキが見られる。

黒姫山は外輪山と中央火口丘の小黒姫、そして二、三の寄生火山からなる複式成層火山である。今から約十七万年前頃から火山活動を初め、四万年前頃に現在の中央火口丘(小黒姫)を形成したと言われる。山頂には旧火口があり、火山原には大池や七ツ池などの火口湖がある。火山構成岩は主として複輝石安山岩である。

出典：信濃毎日新聞社「信州山岳百科Ⅲ」(一部改)